

# 为 了 明 天

ウエイ ラ ミン テイエ

明日のために

子どもたちに希望を 人々に友情を

特定非営利活動法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会

<http://www.sokeirei.org>

## 四川大地震被災児支援のワゴン車

### 「移動少年宮」、四川省都江堰で活躍!

寄贈図書「愛心書庫」・作家・教師たちを乗せ、  
子どもたちの心を癒し、育てるために……

理事 久保田 博子



6月の中旬にかけての8日間、夫と2人で上海に滞在しました。孫文・宋慶齡関係の研究者、記念館等との交流が主な活動でありましたが、当然宋慶齡女史創設の中国福利会(宋慶齡基金会の母体)の方々とも度々お会いし、同会事業の「いま」を案内していただきました。

中国福利会国際和平婦幼保健院では、院長は、本保健院の近代化の第一歩が日本の皆様のご協力によるものであったと20年余前のことを回顧し、最近では貴州省の母子保健事業支援を感謝して下さいました。モデル性を維持しつつ、遅れた地域への対応に努力しているとのことでした。少年宮は、高層ビルになり天を突き刺すように聳えていました。小中学生の課外活動の場ですが、豆ヴァイオリニストだけでも1万人に達するとかで、活動の成果を地方に波及させるようにしているとのことでした。中国福利会託児所では、陳磊所長が園庭に展示された児童画を指差して「これは、ここの児童が描いたものです。児童がここを去る時、親たちにわが子の絵を1,000円で買い上げてもらい、そのお金を貴州省の保育事業に寄付するのです…」と説明されました。食

育に重点を置き、手作り感溢れた保育を見聞しました。ここは、宋慶齡さんが建国後いち早く創設した施設の一つで、彼女が子どもたちと集合写真を撮った石段も残されていました。児童時代社/中国福利会出版社の門を入ると「NPO法人宋慶齡基金会…」と大書された当会寄贈の「移動少年宮」車が目に飛び込んで来ました。顧琳敏社長は、このワゴン車が「愛心書庫」を乗せ、作家や教育専門家を伴い、被災地で読書指導の教師を養成し、児童の心を癒し、励ますことにどんなに寄与しているかについて熱っぽく語りました。今や読書指導基地も定まり、今後さらに有意義な発展をします。ご支援くださっている皆様に感謝します…とも。

この9月には、子どもたちも板張りの仮校舎から新校舎に移り、通常の学校生活に戻りますが、読書との出会いは、いつまでも彼等の喜びと力の泉となるでしょう。「愛心書庫」の運動がもっともっと広がることを願います。

中国福利会出版社は、嘗ての中国福利会の建物を社屋としています。2階には生前の宋慶齡主席執務室が保存されています。現在の中国福利会は、1997年12月以来五原路314号所在の1932年建造の白亜の洋館を事務所としています。

## 第7回 総会報告

2月22日、第7回総会を八王子労政会館で開催しました。

2008年度は、四川大地震緊急支援と貴州省及び寧夏回族自治区への奨学金支給を行いました。あらためてご支援に感謝いたします。

2009年度のプロジェクトは、河北省易県の小中学校への「机と椅子」整備支援、及び必要とされる小中学校に図書セットの寄贈を行ないます。

易県は人口56万人で、北京から120kmに位置しています。農業人口が90%を占め、農業、養蚕、果物、出稼ぎなどが農民の主要な収入源になっています。2008年の平均収入は2,000人民元で、中国の平均収入を大きく下回っています。

易県の経済発展は相対的に遅れ、教育投資が十分に行なわれず、特に学生の机と椅子が不足しています。JCCでは、2001年から6年間にわたり易県の小中学生に対して、奨学金支給、図書セット寄贈・「机と椅子」の整備支援、白馬中学寄宿舎の増改築支援を行なってきました。こうしたプロジェクトは現地では高く評価され、事業の継続が求められています。

易県は、日中戦争では、日本軍侵略の重要拠点のひとつとなり、激戦の地でした。小さな歴史館にはその記録が展示されています。JCCのささやかな支援は、市民レベルの和解と交流の機会になると期待しています。



子どもたちが学ぶ教室（易県）

## 第14回 JCC 中国講座



### 2008年度 収支計算書

2008年1月1日より2008年12月31日

| 科 目            | 金 額       |           |           |
|----------------|-----------|-----------|-----------|
|                | 内 訳       | 期中小計      | 期中合計      |
| <b>収入の部</b>    |           |           |           |
| I 寄付金収入合計      |           |           | 3,843,043 |
| 正・維持会費         |           | 905,000   |           |
| プロジェクト寄付       |           | 2,938,043 |           |
| 幼児教育支援事業       | 0         |           |           |
| 母子保健事業         | 175,000   |           |           |
| 教育支援事業         | 629,000   |           |           |
| 図書セット寄贈事業      | 145,000   |           |           |
| 四川大地震救援事業      | 1,453,800 |           |           |
| カンパ            | 535,243   |           |           |
| II その他の収入合計    |           |           | 834,949   |
| 中国への理解を深める為の活動 |           | 832,060   |           |
| 中国講座           | 43,500    |           |           |
| コンサート          | 788,560   |           |           |
| 預金利息           |           | 2,889     |           |
| 当期収入合計         |           |           | 4,677,992 |
| 収支差額前期繰越金      |           |           | 3,130,285 |
| 当期収入合計         |           |           | 7,808,277 |
| <b>支出の部</b>    |           |           |           |
| I 事業支出         |           | 2,000,000 |           |
| 教育支援事業         | 350,000   |           |           |
| 四川大地震救援事業      | 1,650,000 |           |           |
| II その他の支出      |           | 786,720   |           |
| 中国講座           | 131,200   |           |           |
| コンサート          | 655,520   |           |           |
| III 運営費        |           | 1,392,862 |           |
| 振替口座加入者負担      | 43,940    |           |           |
| 事務室管理料         | 264,120   |           |           |
| 水道光熱費          | 70,780    |           |           |
| 旅費交通費          | 5,540     |           |           |
| 通信費            | 287,380   |           |           |
| 広報活動費          | 276,211   |           |           |
| 会議費            | 15,004    |           |           |
| 国際交流費          | 55,000    |           |           |
| 消耗品費           | 144,451   |           |           |
| 海外送金料          | 22,500    |           |           |
| コピー機リース料       | 148,680   |           |           |
| 原価償却費          | 52,526    |           |           |
| 雑費             | 6,730     |           |           |
| 当期支出合計         |           |           | 4,179,582 |
| 収支差額次期繰越金      |           |           | 3,628,695 |
| 当期支出合計         |           |           | 7,808,277 |

### 2008年度 事業経過報告

2008年1月1日より12月31日

| プロジェクト内容  | 前期繰越    | 当期募金額     | 当期実施額     | 現在積立額     |
|-----------|---------|-----------|-----------|-----------|
| 幼児教育      | 544,339 | 0         | 0         | 544,339   |
| 母子保健      | 32,000  | 175,000   | 0         | 207,000   |
| 教育支援      |         |           |           |           |
| 奨学金・辞典    | 0       | 170,000   | 170,000   | 0         |
| 奨学金(LC)   | 0       | 180,000   | 180,000   | 0         |
| 「机と椅子」寄贈  | 0       | 279,000   | 0         | 279,000   |
| 小 計       | 0       | 629,000   | 350,000   | 279,000   |
| 図書セット寄贈   | 0       | 145,000   | 0         | 145,000   |
| 四川大地震緊急支援 | 0       | 1,453,800 | 1,650,000 | ※ 0       |
| 総 計       | 576,339 | 2,402,800 | 2,000,000 | 1,175,339 |

※不足分はカンパより充当

## 莫 邦富 (モー・バンフ) 氏の講演…………… 「中国市場は日本経済の生命線である」 に寄せて…… 久保田 文次

莫那富氏は、JCCの活動が中国で評価されていることを述べられた後、1978年以降の改革開放経済による発展を概観された。1978年にはGDP(国内総生産)は、中国全体で日本の都道府県の一つくらいに相当するに過ぎなかったが、1990年には日本の9分の1、2003年に3分の1となり、2007年にはついに4分の3(世界第3位)にまで達した。このままでは、本年または来年中に日本に追いつくか、追い越すとの予測を示された。一人あたりのGDPは日本よりは低い、低物価であることを考慮すると、日本市場の購買力に匹敵する訳である。「世界の工場」であるばかりか、「世界の市場」となって、一国としてみれば、中国は世界第三位にあり、やがて第二位となる。日本の貿易相手国としても、アメリカを抜いて第一位にある。

この発展の過程で民間企業・外資企業・自由企業・証券取引業等が出現し、インターネット利用者は3億に達する。富裕層・中産階級が出現し、「小資」(小ブルジョアジー)・「白領」(ホワイトカラー)等の言葉も定着、価値観も多様化し、また、将来の世界は米・中二国が中心となるとの考えも生まれ、「新倫港」(ニューヨーク・ロンドン・香港、東京は含まれず)の言葉もある。

この状況で日本企業はどうすべきか。ホンダなどでは、日本国内では1,600億の赤字だが、中国・アジア地域では3,000億の利益を得ている。中国市場の重要性・特に金融危機以降の情勢を踏まえて対処すべきである。上海を中心とする長江流域と広州を中心とする珠江流域が成長を牽引してきたが、日本企業の両地域における売上高は欧米市場を越しており、上海の邦人数はニューヨークを抜いた。長江地域は広域、均質で高所得という特徴がある。

これからは中部・西部の市場を指向すべきである。安徽・江西・湖北・湖南・河南などは、沿



海に比して遅れているが、もともとの貧困地域ではなく、産米地域でもあった。金融危機による悪影響は輸出依存度の高い東部沿海地域よりは少ない。人件費高騰で上海から人件費の安い中部内陸へ会社を移転する例が増えている。安徽省合肥等ではフランスのスーパー「カルフル」が大きな利益を上げているが、日本企業の売り込みや広告は少ない。日本資本の工場は製品の日本への輸出だけを考えて、高性能のクーラーを周辺地域に売り出そうとしていない。

講演の後半の重点は中部内陸にあったのであるが、莫氏は沿海の山東省東営市の「株式会社〇〇市」とも言うべき自治体経営の事例をも話された。人民公社時代からの集団経営を生かし、経営に成功、生活安定ばかりか、社会福祉の面でも立派な業績を挙げているとのことであった。

質疑の際には東営市の成功企業も労働力は出稼ぎの「農民工」に依存していることも、説明された。都市と農村の格差とともに進んだ農村と遅れた農村との格差の存在にも触れられた。

さらに格差は是正すべきであり、出稼ぎ労働者の深刻な問題はあるが、彼らは沿海部で技術や勤務態度を修得し、中部内陸へ帰ると、地元の工業化の担い手となる意義をも指摘された。「格差」自体の存在が今後の経済発展を促進する意義と、仮に平均化されて一戸に一台自動車を所

(次頁につづく→)



有する事態になると、石油消費量・ガス排出量の増大により、資源・環境問題になるとも指摘された。

「満蒙は日本の生命線」という考えが日本の侵略戦争を誘発したのであったが、莫氏の話はあくまで平和と友好を前提とした共存共栄を主張されたのである。豊富な体験と鋭い観察の成果をもとに、流暢な日本語で写真などを活用されたので、非常に説得力を感じた。書店の店先には、

1989年頃から中国経済崩壊論を主張してきた論者の本が多く並んでいる。中国は多くの矛盾を抱えているが、課題は認識され、解決の方向も共有されている。仮に、中国経済が崩壊したら、ただでさえ、内需拡大に不安のある日本経済は、中国より先に崩壊してしまうかも知れない。そういうことを深く考えさせられた。莫氏に深甚な謝意を表する次第である。

## JCC活動日誌 2008年12月26日～2009年9月15日

2009年

- 1月 7日 仕事始め
- 1月17日 会計処理・08年度決算作業
- 1月25日 第60回事務局会議：第7回総会議案検討他
- 1月27日 京友会 阿久津新会長、中江理事来訪：寧夏教育支援プロジェクトについて意見交換
- 2月 7日 2008年度会計監査
- 2月 9日 劉薇さんと懇談：日中音楽交流について
- 2月22日 第61回事務局会議  
第22回理事会  
第7回総会：2008年度事業・財務報告・監査報告・2009年度事業計画・収支予算等承認
- 3月14日 第63回事務局会議：事業の具体化とJCC中国講座他
- 3月19日 東京都及び法務局への報告書類提出
- 4月19日 第64回事務局会議：JCC講座他
- 5月23日 第65回事務局会議：本年度事業について他  
第14回 JCC中国講座：莫邦富さん「中国経済は日本経済の生命線である」65名参加
- 6月 8日～16日 久保田文次顧問・久保田博子理事

- 上海訪問：中国福利会・上海宋慶齡研究会・上海孫中山宋慶齡文物管理委員会等と交流／上海宋慶齡基金会沈海平対外連絡部長と大地震被害児童支援・雲南省母子保健支援について懇談
- 6月20日 第66回事務局会議：本年度プロジェクトについて他
- 6月26日 フィリピン宋慶齡基金会より「第2回世界宋慶齡基金会主席フォーラム」招待状
- 6月29日 京友会の寧夏視察・辞典寄贈について打ち合わせ
- 7月18日 第67回事務局会議：本年度プロジェクト・ニュースの発行他
- 8月 3日 中国宋慶齡基金会李寧秘書長に京友会寧夏教育支援への協力を依頼
- 8月12日 上海宋慶齡基金会より「幼児創造教育国際フォーラム」招待状
- 8月18日 中国宋慶齡基金会より提案書：河北省易県中学校の「机と椅子」整備支援要請
- 8月30日 第68回事務局会議：プロジェクト・国際フォーラム参加関係
- 9月15日 “為了明天”第17号発行

三浦正巳様(正会員・八王子市) 並木頼寿様(維持会員・東京大学教授)が逝去されました。長年にわたって当基金会の活動を支えて頂き心から感謝申し上げます。お二人のご冥福をお祈りいたします。

### JCC中国講座 第15回 予告

#### 『円仁慈覚大師の足跡を訪ねて』 —中国唐代の旅—

【講師】阿南・ヴァージニア・史代さん

東アジア研究家。1944年アメリカに生まれる。後に日本国籍取得。夫君は前駐中国日本大使阿南惟茂氏。アジア学(東アジア史・地理学専攻)で修士号を取得し、現在日本のテンブル大学で中国史を講義。著作に「古き北京との出会い 木と石と水の物語」、「円仁慈覚大師の足跡を訪ねて 今よみがえる唐代中国の旅」など。日中両国で多くの写真展を開催する他、講演なども精力的に行っている。

..... 主催：NPO法人宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会 問合せ：TEL&FAX 042-646-4210 .....

日時：09年11月7日(土) 14:00～16:00

場所：八王子市クリエイトホール 第2学習室

参加費：500円

延べ25年をかけ、円仁慈覚大師(794—864)の「入唐求法巡礼行記」を辿り、特に2001～2005年の間、円仁が歩いた中国の道、計5千キロの旅をして来ました。仏教教義を求めて巡礼し、文化の境界を超えて、あらゆる階層の人々と親しく交わった高僧円仁の日々の足跡を、現代の中国の文化や人々の様子について、ご自身で撮影した写真を交えてお話されます。

### 編集後記

至極、平静裏に行使された平成の維新一選挙結果の大政変に目を見はりつつ迎えたこの秋。前途の多難は危惧されるが、あせらず、おおらかな心で更に政治への関心を持ちつづけたいと思う。爽やかな風！ 明るい青空！ 切に世の平安を祈りながら「為了明天—明日のために、No.17」をお届けします。皆様、どうぞお健やかに過ごして下さい。(三浦)

### 「為了明天」No.17

2009年9月15日発行 編集：三浦・井上  
発行者： 題字：周肖  
NPO法人宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会  
代表理事 諏訪きぬ  
〒192-0904 東京都八王子市安町1-43-6-206  
TEL/FAX 042-646-4210  
郵便振替：00170-2-152423  
三菱東京UFJ銀行八王子支店(普通)4731623